

いただきます、  
宮崎県障がい者芸術文化支援センターです。



いちごオレ

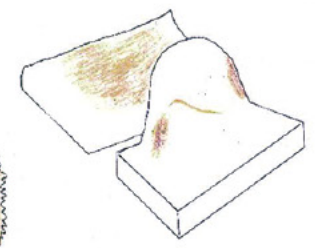


ターキーレッグ

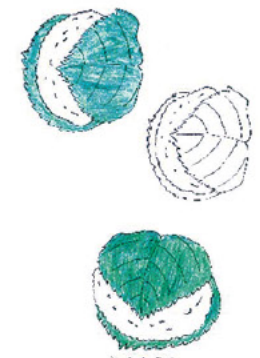
白身魚フライ



オニオンリングフライ

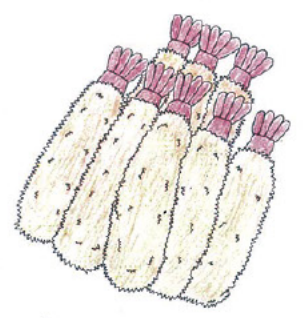
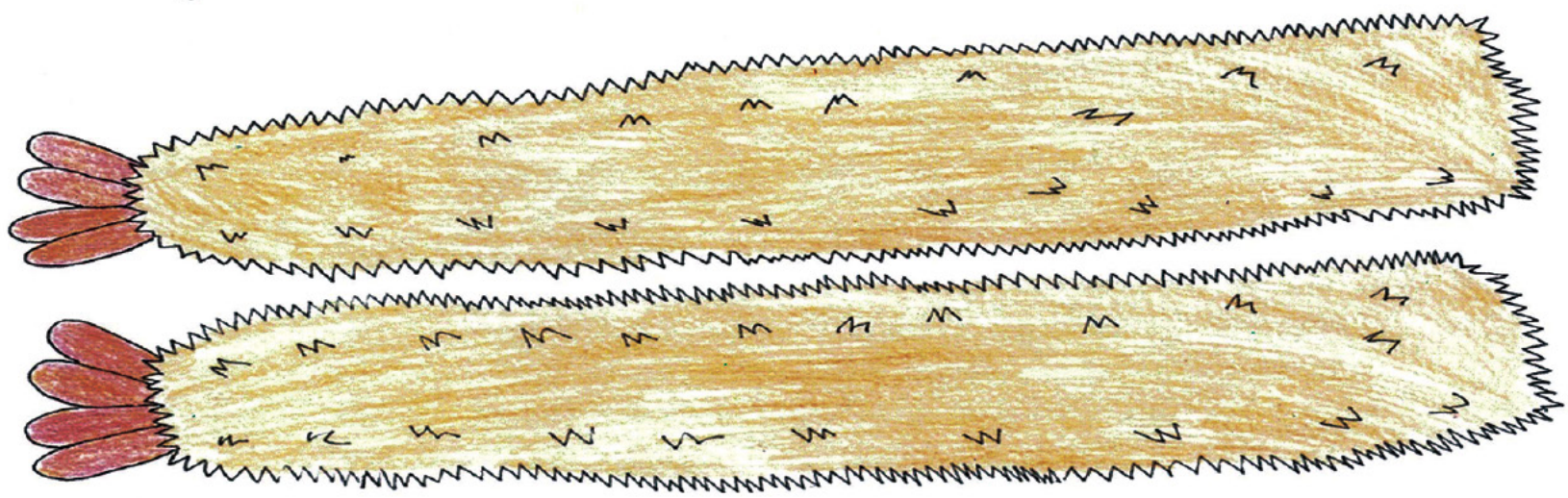


おもち



さくらもち

超特大エビフライ



エビフライ

チキン南蛮



天ぷらセット

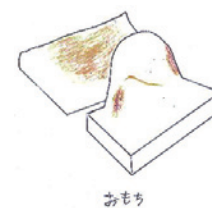
レッドホットチキン



コーヒー

令和3年度

宮崎県障がい者芸術文化活動普及支援事業 報告書



もち

## ごあいさつ

「いただきます、宮崎県障がい者芸術文化支援センターです。」

本年度で3年目を迎えた宮崎県障がい者芸術文化支援センターですが、報告書の表紙にはその年に出会った作品を使わせていただいております。

今回は見るだけでよだれがでる、おいしそうな食べ物を載せました。

作品を見ると、作品の奥や物語をなんとなく想像したくなります。きっと食べることが好きなんだなあとか、揚げ物が大好物なのかなあとか。食べたいものを表現したり、作品にしたりすることが日常にあるのかなあとか、作品を見た人がおいしそうと言って、晩御飯のメニューを決めたりするのかなあとか。

素敵な作品、おいしそうなメニュー、超特大エビフライ！いただきます！

食べたいものを想像したり、描いてみたりなど、表現をする事は何ら特別なことではありません。

しかし、その人やその人のほんの周りにとっては特別なこととなり得るかもしれません。

息を吐くように表現することも、熟練された技術によって表現することも、その人それぞれの表現があり、その表現を見つめるまなざしも確かにそこにあります。

その表現されたものは、その人のほんの周りに影響を与え、小さな波を起こし、喜び、悲しみ、安心、不思議、好奇心、愛しさ、苦悩、親しみ、感動、苦しさ、興奮、など様々な想いをめぐらせるきっかけとなるかもしれません。

ほんのかすかな動きしかできないとしても、芸術はその表現を受け止めてくれます。

芸術という形は、その表現を多くの人に届けることができます。

芸術という可能性の芽は、その人やその人の表現を中心として育ち、大きく花開くことになるでしょう。

ほんの少しですが、宮崎県内各所で見られた芽吹きや開いた花を本誌にまとめましたので、ご覧いただき、感じていただけますと幸いです。

最後に、障がい者芸術文化支援センターとして、表現や芸術を通じた特別な場面に出会えること、大変幸せで、感謝してもしきれません。

私たちだけではできないことばかりですが、多くの仲間を支えられ、多くの表現に感銘を受け、進んでおります。

皆さま、本当にありがとうございます！

これからも素敵な芽が生まれ、大きな花が咲いていきますように。

宮崎県障がい者芸術文化支援センター

## もくじ

- 3 ごあいさつ
- 4 もくじ
- 5 事業概要
- 6 宮崎県障がい者芸術文化支援センターとは
- 9 事業報告
- 10 令和3年度の計画
- 13 「視覚障がいと作品鑑賞について」
- 17 まちなかアート化
- 21 ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～
- 29 施設訪問・取材、相談支援
- 33 成果と課題と展望

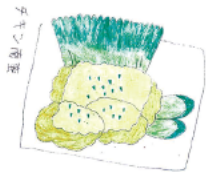
## 事業概要



### 宮崎県障がい者芸術文化支援センターとは

宮崎県障がい者芸術文化支援センターは、2019年6月に国・県の委託を受け、<sup>※</sup>障害者芸術文化活動普及支援事業の支援拠点として設置されています。障がいのある人たちの芸術文化活動の振興を図るとともに、自立や社会参加を促進することを目的としています。当センターの拠点は「アートステーションどんこや」という障がい福祉サービス事業所にあり、身体に障がいのある人々が集まって1994年に「障害者芸術村」という名称でスタートしています。私たちは、芸術活動を通して社会と関わり、それぞれの自立の形の創造を目指しています。

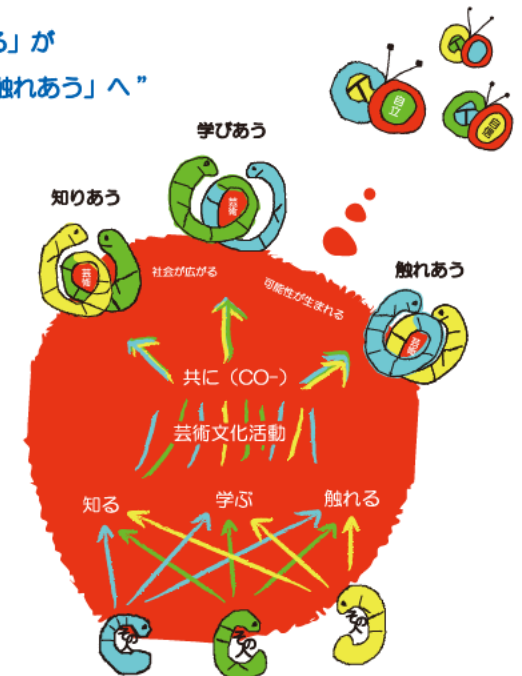
※詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。  
<http://renkei-sgsm.net/>

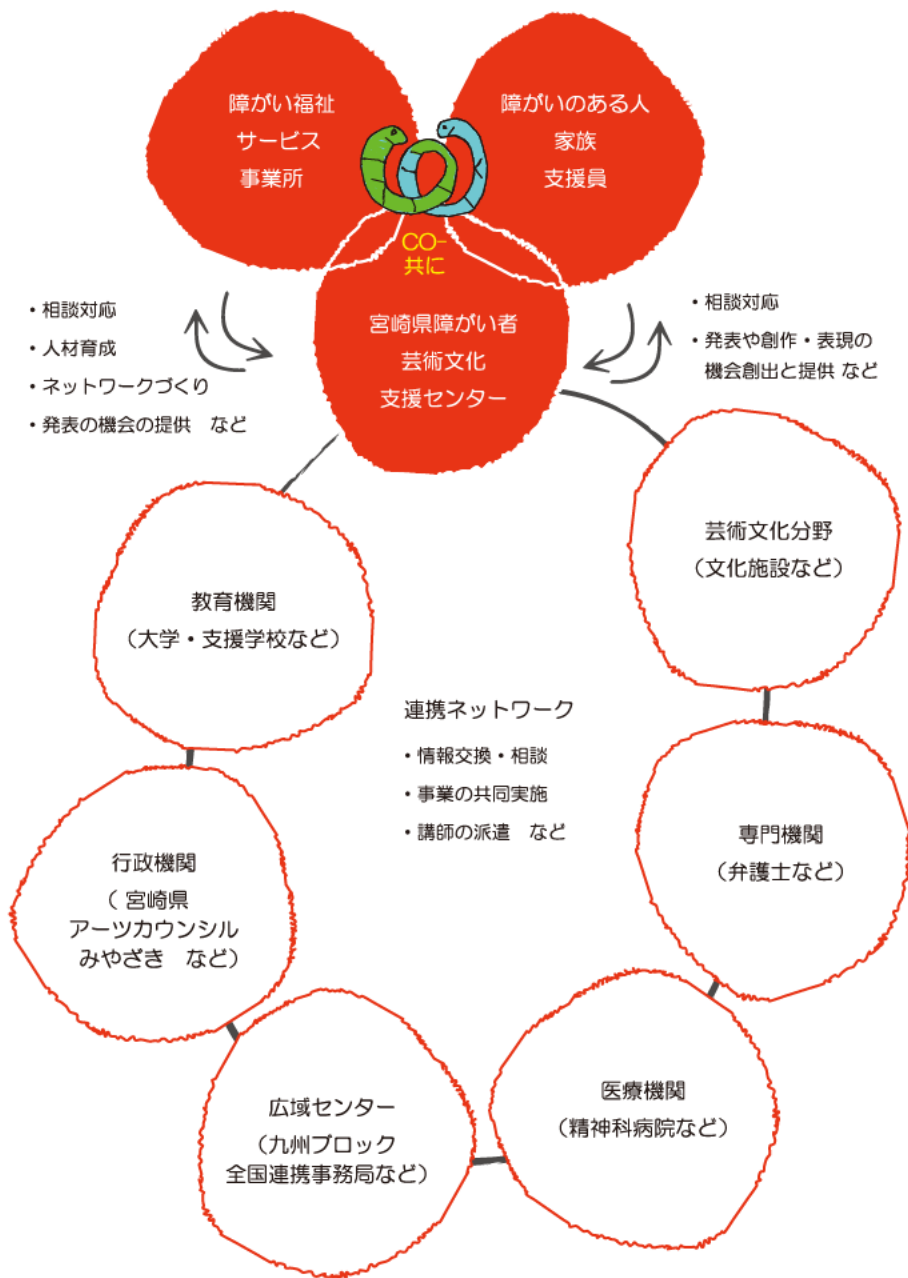


### テーマ

”芸術文化活動で「知る、学ぶ、触れる」が  
 共に「知りあう、学びあう、触れあう」へ”

宮崎県の地に障がい者芸術を普及していき、その人（障がいのある人）の表現に芸術文化活動を活用します。その人らしくある環境（社会）を創り、その表現を通して周りの人や社会とつながり、地域（社会）の中で暮らしていくための可能性（社会参加、自立、やりがい、生きがい、地域交流など）や生きる力（自信）を共に（co-）生み出すことがねらいです。





## 現状と課題

本事業のねらいに、「宮崎県における障がいのある人が、芸術文化活動に気軽に取り組めること、また、その環境を広げていくこと」を掲げています。

まず、現状として、ごく一部の個人や団体が芸術文化活動に盛んに取り組んでいますが、まだ広く普及していません。2019(令和元)年度に障がい福祉サービス事業所に対して実施した、芸術文化活動に関するアンケートの回収率は12%と低く、「指導者・適任者がいない」、「方法がわからない」、「収入になるならしてみたい」といった現実的な問題、また「芸術文化活動はハードルが高い」といった意識的な課題があります。

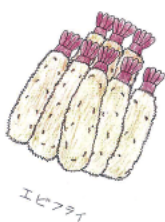
そこで、令和2年度より以下のことに取り組んでいます。

- 芸術文化活動の魅力や可能性を知ってもらうきっかけづくりや作品展
- 芸術文化活動がもっと身近な活動となるようなワークショップ
- 芸術文化活動を通して、障がいのある人ない人が共に学び合う場を提供し、それが社会参加の場になるようなセミナー
- 事業所や個人に対する継続的な相談支援やその後の芸術文化活動の継続的支援
- 国文祭・芸文祭みやざき2020を通して、障がいのある人ない人が共に触れ合う場を創り、地域の障がい者に関する芸術文化活動の環境整備の支援

これらの活動を行い、障がいのある人の芸術文化活動ができる環境整備の普及や、また引き続き支援と当支援センターの認知度向上が課題です。



## 事業報告



### 令和3年度の計画



#### 宮崎県内における相談支援

広域センターや連携事務局などの関連機関との連携や、専門機関との協力体制のもと、電話やメール、また訪問先等での相談対応を行う。



#### 芸術文化活動を支援する人材の育成等

障がい福祉サービス事業所におけるアート活動支援や、著作権等の権利保護に関する研修を行う。



#### 関係者のネットワークづくり

県内の障がい福祉サービス事業所や文化施設、学校等の教育機関、さらにアーツカウンシルみやざき等の関係者と連携し、ネットワークを構築していく。また、他県の支援センターや広域センターとの連携を図るため、出張研修や会議等に積極的に参加する。



#### 発表などの機会創出

表現や作品発表の場となる展覧会やワークショップを実施する。また、その際に、セミナーやシンポジウムを併せて実施し、活動への参加の機会を創出する。



#### 情報収集・発信

昨年度に引き続き、Facebookやホームページを利用して、県内および県外の芸術文化活動に関する情報や当支援センターの企画について発信する。また、チラシやパンフレットは公共施設に設置するなど、当事者へ情報が直接届く方法を模索し、実施する。



#### 国文祭・芸文祭みやざき 2020 大会との連携、協力

今年度開催された全国障害者芸術・文化祭みやざき2020大会にて「コロナイロ～県内障がい者アート作品展～」を実施する。行政と協力しながら、芸文祭の情報の発信、参加の呼びかけを行い、特別支援学校との合同作品展や関連イベントを実施する。



#### 事業評価及び成果報告の取りまとめ

県内の障がい者やその支援者に対して、事業についての満足度や効果、また現状についてのアンケート調査を行い、センター事業の効果を把握し、まとめる。

人材育成



ネットワークづくり



発表などの機会創出



情報収集  
発信・相談



宮崎県立美術館  
訪問

「ココロノイロ作品展」  
支援学校や行政と連携

ココロノイロ(芸文祭)まで実施

「視覚障がいと鑑賞」打合せ①

「まちなかアート化」  
作品展示@TUTAYA

「ココロノイロ作品展」  
打合せ・準備など

キュレーターと共にココロノイロ(芸文祭)まで実施

重度障がい福祉  
3施設WS提供

4月～10月まで入れ替え展示

県立視覚障害者  
センター訪問

重度障がい福祉  
施設①訪問調査

アーティスト①取材

アーティスト②取材

アーティスト③取材

随時相談支援

「視覚障がいと鑑賞」ツアー①

著作権セミナー  
シンポジウム

「視覚障がいと鑑賞」ツアー②

「視覚障がいと鑑賞」打合せ②

宮崎県総合博物館  
訪問

「視覚障がいと鑑賞」まとめ

「ココロノイロ作品展」

「まちなかアート化」  
作品展示@みやはく

芸術文化活動に関する  
アンケート実施

「まちなかアート化」  
出張相談@みやはく

随時相談支援

## 「視覚障がいと作品鑑賞について」

視覚障がい者の芸術文化の鑑賞について考え、障がいのあるなしに関わらず、芸術文化を享受することができる環境を整える。また、障がいのある人の鑑賞について、障がいのある人ない人が共に考え合うことで、芸術文化を通じた共生を考えていく。

「美術館へ行く、作品を鑑賞する、感じることができる」ということが障がいのある人の日常生活の中の一部になることを目指し、様々な課題を当事者の視点より整理し、実行委員と作品鑑賞について検討していく。



### 実行委員のメンバー

- 文化施設関係者(美術館学芸員2名)
- 学識経験者(ファブラボ代表1名)
- 教育関係者(支援学校教諭1名)
- 障がい者関係団体(視覚障害者福祉協会所長1名)
- 当事者(全盲の方1名)
- 芸術文化活動支援員(障がい者芸術文化支援センター職員1名)



実行委員会議の様子(zoom)

### 「視覚障がいと鑑賞について」鑑賞ツアー①

語って、触って、イメージして、作品をいっしょに鑑賞しよう!

[日時] 2021年10月15日(金)10:00~11:30

[場所] 宮崎県立美術館 「ココロノイロ作品展」会場

[参加者] 16名と盲導犬1頭

(視覚障がい者4名、ガイドヘルパー3名、晴眼者8名)

チラシ、SNSで募集する。

[内容] 3グループ(実行委員がリーダー)づくり、会場内にある立体作品、絵画作品、書、写真、映像作品から4点ほどお話ししながら鑑賞する。それぞれ約15分ほど、立体作品に関しては使い捨て手袋をはめていただき、触って鑑賞する。

[協力] 宮崎県立美術館



触って作品を感じられる様子



書の鑑賞



立体作品の鑑賞



写真の鑑賞



音と映像による鑑賞



## 「視覚障がいと鑑賞について」鑑賞ツアー②

イメージを広げて作品鑑賞しよう!

【日時】 2022年1月21日(金) 10:00~11:30

【場所】 高鍋町美術館

「幽趣佳境 抽象画の世界」常設展示室

「高鍋町美術協会展・墨友誌鑑賞欄作品展」会場

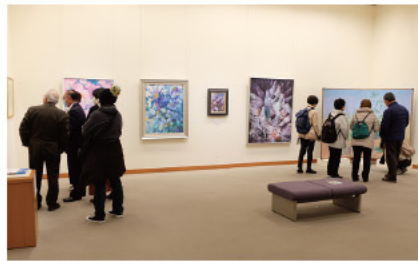
【参加者】 9名

(視覚障がい者2名、ガイドヘルパー2名、  
晴眼者5名)

【内容】 2グループ(実行委員がリーダー)づくり、抽象画と具象画を4点ほど鑑賞する。

鑑賞の方法として、テーマ「オノマトペを使ってみよう」を設け、全盲の美術家・光島貴之さんの鑑賞ツアー(アクセスビュー)を参考にして、会話を楽しみながら鑑賞する。

【協力】 高鍋町美術館



会場にいた作家と会話しながら鑑賞される



### まとめ「視覚障がいと作品鑑賞について」



視覚障がいの方や実行委員の方との作品鑑賞会と意見交流会を経て、作品を共に鑑賞する機会をつくることの必要性がみえてきました。

対話を行う時は、リーダー(委員)がファシリテーターのような存在となり、感情や感想などを引き出していました。キャプションや客観的な作品情報を伝えるよりも、その人が感じたこと、思ったことなどの解釈を伝える方が、わかりやすい、なじみやすいということがありました。それらの感情を出し合って伝え合い、そこからまた質問や思い出がよみがえるなど、参加者それぞれの感性や特徴が混ざった楽しい鑑賞会となりました。また、鑑賞のヒントとして「オノマトペ」や、光島さんの鑑賞の4つの「しない」ルールが、会話の手助けとなり、ことばが出てくるきっかけや対話のとっかかりとなりました。他にも、「〇〇さんの身体2つ分の大きさ」とか、生活やなじみの深いものと直結して話をしたり、なぜ好きなのかの理由を聞くなど、その人のことばやおもしろさを味わうのも会話が広がり鑑賞が深まりました。

課題として、コミュニケーションを円滑にするために自己紹介や歓談する時間をしっかりとることや、美術鑑賞のおもしろさや「間違ってもいい、ちゃんと説明しなくてもいい」など美術に対する抵抗を低くするようなアプローチの必要性を感じました。

今後の方向性として、「視覚・触覚・感情を伝える」ガイドとなる作品鑑賞の手引書(仮)作成を検討しています。内容は、手引書をヒントに作品鑑賞を行うことで、自然と作品鑑賞が深まることのできるものとし、特に同行するヘルパーに向けたガイド作成のため、美術関係者、視覚障がい者、県立視覚障害者センター、ヘルパー、支援センターの共同で対話型鑑賞ツアーを重ね、まとめていきます。また、作品鑑賞を通して生まれる自然なコミュニケーションの場から互いの理解を促進し、障がい理解のきっかけの場を創造していきます。



視覚の程度を含め自己紹介をする様子



抽象画の鑑賞



## まちなかアート化

支援センターから外に出て、宮崎の街中で芸術文化活動を行う。障がいのある人ない人が、共に触れ合う場をつくることを目的とする。

宮崎県の多くの人に、この活動を知っていただくため、文化施設やショッピングモールなど、人が多く集まり、行きかう場所において、障がい者芸術文化活動に関する相談(出張相談)、障がいのあるアーティストや外部講師によるワークショップや作品展(オープンアトリエ)、セミナー(オープンカイギ)などを行う。



### オープンアトリエ①

アートトレーラーが連れてきたぞっ!! まちなかアート化@TSUTAYA

[日時] 2021年4月1日～10月17日(芸文祭終了まで)

[場所] 宮崎市 高千穂通り蔦屋書店2階 レジ前柱

[参加事業所や個人] 3事業所と2名

4月 アートステーションどんこや(絵画)24点

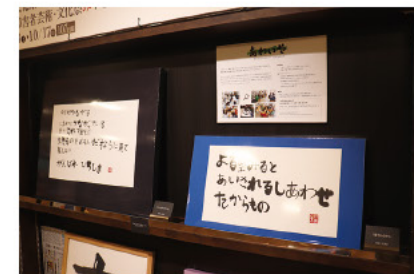
5-6月 あわいや(書)10点

7-8月 個人で活動をされている方2名(写真)6点

9-10月 デイセンターひなた(絵画)8点

[内容] 障がい者芸術文化活動の魅力、日常生活(本屋)の中に溶け込むように蔦屋書店で継続的に様々な作品を展示した。併せて作品と一緒に事業所を紹介する写真やリーフレットも一緒に展示した。また、「国文祭・芸文祭みやざき2020」にあわせて、県内障がい者アート作品展の応募用紙やチラシ、ポスターを掲示し、広報活動を行った。

[協力] 高千穂通り蔦屋書店



コロナ禍で、当初想定していた多くの人が見る機会は減ったのかもしれないが、人を集めることなく、行きかう場所として蔦屋書店レジ前の柱での展示は最適な場所だった。

### オープンアトリエ②

アートトレーラーが連れてきたぞっ!! まちなかアート化@みやはく『合同作品ウーバーアーツ展 あゆみ<sup>そら</sup>宙 N.C.S.station』

[日時] 2022年3月9日(水)～21日(祝・月) 9:00～17:00

[場所] 宮崎県総合博物館 2階民俗展示室前ロビー

[参加事業所] デイサービスセンターあゆみ

宮崎市総合発達支援センター 生活介護事業 おおぞら宙

指定生活介護事業所 N.C.S.station

[内容] 重度障がい福祉施設が取り組んだ、アートを感じて楽しんだ作品と活動の様子の写真パネルを展示した(「アート配達します!」ウーバーアーツ計画 p.24参照)。また、障がい者芸術文化活動に関する疑問や不安を受ける相談日を設け、全国の動きや宮崎におけるこれまでの活動内容を提供した(p.31参照)。

[協力] 宮崎県総合博物館



### まとめ「まちなかアート化」

宮崎のまちなかに障がいのある人ない人が芸術文化を感じる、楽しむ場を、人と街と事業所をつなぐようにつくっていきました。蔦屋書店は、昨年度、「アートトレーラーがやって来たぞっ!!事業所巡回型作品」の1展示会場として作品展示を行っていました。その時のつながりで、今年度は「アートトレーラーが連れてきたぞっ!!」において、定期的に絵画・書・写真の展示をさせていただきました。作品だけでなく、事業所の活動の様子の写真や記事、リーフレットも一緒に掲示して障がい者芸術文化活動の魅力を発信しました。本屋さんに来たお客さんが歩みを止めて、興味を持って作品を見られたり、作品についての問い合わせがあったという報告がありました。また、出展された当事者が事業所や家族の人と一緒に街に出て、蔦屋書店に行くのが嬉しかったという喜びの声も聞きました。当初は、販売も目的に入れていましたが、準備不足等のため実施に至りませんでした。

宮崎県総合博物館においては、はじめての試みでしたが、子どもからお年寄りまで幅広い来場者のある宮崎県の文化施設で、作品展と障がい者芸術文化活動普及支援事業を紹介しました。当支援センターの活動内容や、この事業を多くの人に知っていただくための良い機会となりました。



チラシと活動紹介パネル



### 期待される効果

### 今後の課題

- |                                      |   |                                 |
|--------------------------------------|---|---------------------------------|
| ①来場者が感動したり、その場の雰囲気が変わる               | ➡ | ①アートの持つ力を発信する                   |
| ②障がいのある人が文化施設に来る                     | ➡ | ②作品発表の機会や外出の喜びを増やす              |
| ③作品や活動の紹介を通して、障がいのある人ない人が表現・創作活動に触れる | ➡ | ③鑑賞やワークショップ・セミナーなどを通じた交流の機会をつくる |
| ④共生社会                                | ➡ | ④地域の文化施設における障がいのある人への環境づくり      |

## ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～

毎年実施している「ココロ」のふれあうフェスタ作品展」を「国文祭・芸文祭みやざき2020」のプログラムの一つとして、作品展や関連イベントを行う。



発表の機会の創出及びつながる場の一つとなるよう、「つながる」「ふれあう」をキーワードとして、芸文祭をもちあげ、宮崎県内の障がい者芸術文化活動の発表の場と当事者の社会との接点の機会を創出する。

関連イベントにおいては、障がいのある人もない人も心を通わせることを目的としたワークショップ等を実施する。

### 作品展

#### 「ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～」

〔日時〕 2021年10月9日(土)～10月17日(日)

〔場所〕 宮崎県立美術館 県民ギャラリーⅠ・Ⅱ

〔参加者〕 13特別支援学校・18事業所・16個人

〔作品点数〕 510点(平面・書・写真・立体・芸芸)+コラボ作品

〔来場者数〕 2079人

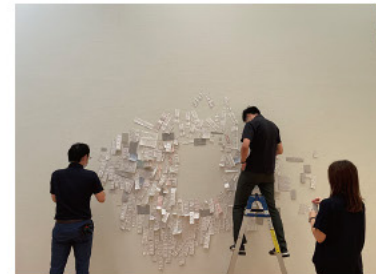
〔内容〕 県内から作品を募り応募作品すべてを展示した。特別支援学校との合同開催で、特別支援学校の実行委員会と協力しながらコラボ作品の制作と展示を行った。

応募要項等のチラシやポスターは、SNSやホームページで案内し、個人や、事業所、文化施設へは郵送した。また芸文祭関係のイベント会場にも設置し募集を呼びかけた。

関連イベントとして、会期中に①「作品展から考える権利のこと」、②「視覚障がいと鑑賞について」、③「ココロノイロツアー」を開催した。

〔協力〕 宮崎県立美術館

宮崎県立特別支援学校アート展実行委員会

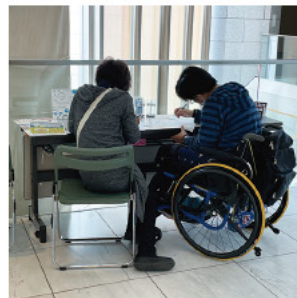


会場を地域ごとにわけて支援学校と支援センターの作品を紹介し、「作品を通じて心が通い合う」展示をめざした。作品と作者をより感じられるように、制作時の手の写真や道具をチラシやポスターに起用したり、会場内にも展示した。





県内で造形作家として活躍されている松下太紀氏をアートディレクターに迎え、作品展の構想を何度も練った。宮崎県の北・南・西・中央エリアからそれぞれ1名の作家をピックアップしたコーナーを設け、その作家の表現と想いの「積み重ね」を、インタビューした映像やパネル、普段使っている道具と一緒に展示した。



## ワークショップ

「ココロノイロWS」→「アート配達します!」ウーバーアーツ計画 へ

【日時】 2021年7月~9月

【参加事業所】 アートステーションどんこや 7月にWS実施  
 デイサービスセンターあゆみ →9月アートBOX配達  
 宮崎市総合発達支援センター おおぞら 宙 →9月アートBOX配達  
 指定生活介護事業所 N.C.S.station →8月調査訪問、9月アートBOX配達  
 他 アトリエ三美、東大宮夢はうす児童クラブ

【内容】 「国文祭・芸文祭みやざき2020」に関連したワークショップを行うため、重度障がい福祉施設に向いた。芸術文化活動に関する調査と現状を把握し、「ココロノイロをつなぐ」を意識したワークショップ(コラボ作品制作)を試み、そこで生まれた表現や作品をココロノイロ作品展会場に展示する予定だった。



しかし、新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言で、事業所に入っのワークショップができなくなった。そこで代案として、ウーバーアーツ計画を立て、画材や創作方法をセットにしたアートBOXを事業所へ届ける「アート配達します!」を行った。

また、地域の絵画教室や児童クラブにも声をかけ、コラボ作品制作を呼びかけた。



アート遊び方説明書(上) アートBOX(右)





昨年度、芸術文化活動のきっかけづくりを行った重度障がい福祉施設への継続的な支援を行った際に、ココロノイロWSへの参加を促した。新たな事業所には、様々な作品を通しての交流と、感触を味わえるスポンジや綿、小麦粉粘土などをアートBOXにつめて、創作活動につながるきっかけを提案した。



## セミナー

### 「作品展から考える権利のこと」

講師：後安 美紀氏、奥田 奈々子氏（一般財団法人 たんぼぼの家）

〔日時〕 2021年10月10日(日)

〔場所〕 宮崎県立美術館 アートホール  
県民ギャラリーⅠ・Ⅱ 常設展示室

〔対象〕 障がい者芸術に興味のある方

〔参加者〕 11名(障がいあり 4名、障がいなし 7名)

〔内容〕 作品展における、その人の表現を守りながら発信していくときの、より良い広がり方や見せ方を講師と、ココロノイロ作品展に出展している作家とその参加者と、一緒に考える。前半は、作品展と常設展のギャラリーツアーを行い、後半は、講師による知財に関する基礎セミナーを行う。



作品展と常設展のギャラリーツアーでは、作品（著作物）には作者（著作者）がいるということを、出展している作家を通して、会場で体感した。

その人の創作や発表するタイミングを大切にすること、著作権は物だけではなく、表現したものの・されたものであることを、改めて実感したセミナーとなった。

## シンポジウム

### 「ちょっとお邪魔しますっ!ココロノイロツアー」

アトリエ出演事業所: つよし学園・風舎つるまち・アートステーションどんこや

トークイベント登壇者: ファシリテーター 山森 達也 氏(アーツカウンシルみやざき PD)

松下 太紀 氏(造形作家・ココロノイロ作品展 ディレクター)

森山 恭子 氏(宮崎県立みやざき中央支援学校 教頭)

田中 大紀 氏(宮崎県国民文化祭・障害者芸術文化祭課 担当者)

岩切 明日香 氏(宮崎県障がい者芸術文化支援センター 職員)

[日時] 2021年10月16日(土)

[場所] 宮崎県立美術館 アートホール、アトリエ、県民ギャラリー1・II

[対象] 障がい者芸術に興味のある方

[参加者] 32名(障がいあり 16名、障がいなし 16名)

[内容] 前半は、事業所で日々行われている表現活動の場(アトリエ)を再現し、支援員とアーティストの普段創作している様子をのぞいて、その場を体感した。後半は、トークイベントを開催し、ココロノイロ作品展のことや、「人」や「物語」を見せることについて考えた。



アトリエでは、放課後等デイサービス事業所のこども達がアーティストの創作の様子に興味深そうに見られており、質問をするなど交流が生れていた。また、普段と違う場所で創作しているアーティストの様子に発見があったという支援員の声があった。

トークイベントでは、「つなげる」、「表現が世界を広げる」、「世界に触れる」がキーワードとなる。前半のアトリエで創作活動していたアーティストもトークイベントに参加され、その一人が始終笑いを起こし、会場全体で話が飛び交う楽しい時間となった。

### まとめ「ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～」



作品展においては、支援学校と合同で行う意義からみつまめ、自分たちが住んでいる宮崎をイメージし、エリア分けでの展示をすることで、ここに学校がある、事業所がある、自分は住んでいると、作品を通して感じることができました。これからの支援や支援学校とのネットワーク形成などにつながったのではないかと思います。

セミナーやシンポジウムでは、コミュニケーション、信頼関係、その人のタイミングを尊重する、脱線するなど、そうしていくことが世界を広げるというところにつながるのではないかと思います。意見がでました。また、「作品に心がのっかってる」など、印象的なことばもでました。

ワークショップは、コロナ禍でもできることを工夫し、その事業所内でアートを体感し、「利用者さんの笑顔がみれました!」という報告を受けました。

全体を通して、障がい当事者がイベントに参加されたことにより、ココロノイロ作品展会場内やトークイベント会場などで障がいの有無を越えた交流の場が多く生まれました。芸文祭がきっかけで生まれたつながりを活かし、今後も障がい者芸術文化を普及していく仕組みづくりが必要だと感じました。

## 「施設訪問・取材、相談支援」



福祉事業所を訪問し、障がい者芸術文化活動の普及および現状を知る。その事業所、その人らしい表現や創作活動が、継続してできるよう提案や支援を行う。また、県内在住のアーティストを発掘・調査し、活動をサポートする。相談支援においては、電話やメール等の通信手段または対人において、芸術文化活動の様々な疑問や不安などに対応する。広域センター（九州ブロック）や連携事務局（全国）の支援センターとの連携や、専門機関との協力体制のもと進めていく。

### 施設訪問

#### 重度障がい福祉施設訪問

【日時】 2021年7月16日（金） →その後相談支援とウーバーアーツ計画へ

【場所】 指定生活介護事業所 N.C.S.station

【内容】 事業所内にアートを取り入れたいという重度障がいがある人への創作支援の相談があった。コロナWSにおけるアーティスト派遣のワークショップを提案し、造形作家の松下太紀氏と訪問調査に入った。

その後、新型コロナの影響で施設内に入っのワークショップが困難となるが、電話や感染対策を行っての出張相談を行い、「アート配達します！」ウーバーアーツ計画を提案した。



### アーティスト取材

#### ココロノイロピックアップアーティスト

【日時】 2021年8月、9月、10月

【取材場所】 ご自宅、事業所、ZOOM

【取材人数】 4名（新型コロナの影響で1名は取材できなかったが、作品展会場で話を聞く）

【内容】 造形作家の松下太紀氏、障がいのあるアーティスト、作品展関係者で選定した4名のアーティストに取材をした。新型コロナ感染対策を十分に行ったうえでの取材やZOOMによるインタビューを行った。それら取材の内容を、記事や写真、映像としてココロノイロ作品展会場に作品と一緒に展示した。



### アンケート調査

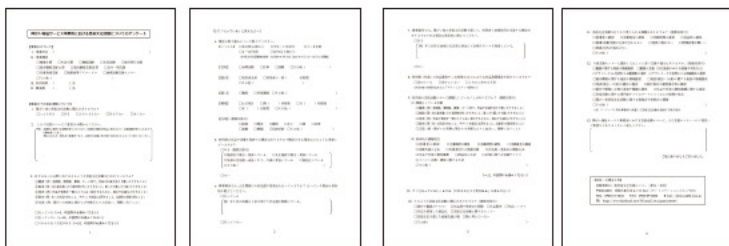
#### 障がい福祉サービス事業所における芸術文化活動について

【日時】 2022年2月

【調査対象事業所】 622事業所（宮崎県内の療養介護、生活介護、機能訓練、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援A型・B型、日中一時支援、児童発達支援、放課後等デイサービス、地域活動支援センター）



[内容] 3年目を迎えた当支援センターは、障がいのある方の生活の一部に芸術文化活動や表現活動を取り入れることで、社会との接点が生まれること、その人の可能性が広がっていくこと、また「国文祭・芸文祭みやざき2020」の開催により、障がい福祉サービス事業所での芸術文化活動が徐々に広がりを見せてきたことを実感している。しかしながら、当支援センターではまだその魅力を伝えきれていない現状があると感じ、障がいのある方と直接関わる支援員の方に、その事業所における芸術文化活動についての現状や課題を聞いた。



[結果] 記入いただいたアンケートは、FAXまたは同封の返信用封筒で返信していただき、237事業所の回答を得た(回収率:38.1%)。アンケートの分析は現在進行中であり、来年度の事業展開へと進めていく。

#### 相談支援(出張相談)①

##### 出張!みやざき芸術文化相談!

[日時] 2022年3月9日(金)、18日(金)、19日(土)

[場所] 宮崎県総合博物館2階ロビー

[内容] 支援センターから飛び出し、作品展会期中に相談日を設ける。発表の機会や表現・創作活動、商品化や権利問題など、障がい者芸術文化活動にまつわる様々な疑問や不安などの相談に対応する。当支援センターの認知度の向上をねらい、宮崎県内および全国の支援センターの活動の紹介や情報を提供する。

[相談件数] 2件(家族・独立行政法人)

障がい者芸術の理解というんな方に広めたいという相談と障がい者雇用や協力できるようネットワークづくりの相談。他に、情報発信として、新聞社やテレビ局の取材があった。



#### 相談支援②

##### 今年度の相談支援

[日時] 令和3年4月1日から令和4年2月28日まで

[内容] 電話やメール、その他の方法での障がい者芸術文活動に関するさまざまな相談のほか、事業所訪問や作品展やセミナー、イベント会場先で話を伺い対応した。

令和3年度の相談件数(R3.4月～R4.2月)

71件 (延べ167回)

##### 相談者属性

43件	障がい当事者
4件	家族
15件	福祉関係者
0件	文化施設
0件	芸術家・団体など
0件	市民団体
0件	教育関係者
0件	医療機関
4件	自治体
5件	その他 (企業・報道機関など)

##### 相談分野

57回	美術
0回	音楽
0回	演劇
0回	舞踏
20回	その他
2回	分類できないもの

##### 相談種別

0回	鑑賞
4回	創造
50回	発表
2回	交流・連携
0回	調査研究・保存
3回	権利保護
1回	人材育成
8回	情報発信
3回	その他

##### 相談方法

126回	電話
1回	FAX
21回	メール
8回	来訪
2回	訪問
9回	その他(ハガキ・SNS)

今年度は国文祭・芸文祭みやざき2020があったため、それに関するイベント、作品展等に関する相談が多くあった。特に障がい当事者からの相談が多く、何度もわからないところや不安なところの問い合わせが多く寄せられ、その都度対応を行った。特記として、当事者からの相談は、ほとんどが電話や手紙またはハガキ、Facebookのメッセージを通して受けることが多かった。また芸文祭がきっかけで、作品展やイベントに参加できたことのお礼、次の和歌山に出展したこと、来年度開催の沖縄県のことも知りたいなど、意欲的な報告の電話も増えてきている。

## 成果 令和1年度から3年度のこれまで



### 障がい者芸術のよろず相談所としての機能

障がいのある当事者や障がい福祉サービス事業所からの相談に対して、その都度アドバイスや専門性のあるところへの紹介や情報提供を行った。当事者のかかえる問題や不安を解決につなげるよう、また、その当事者が活動に取り組みやすい環境を整備できた。



### 障がい者芸術の支援ネットワークを構築

障がい福祉サービス事業所への訪問調査、文化施設関係者や特別支援学校の先生との研修会や意見交流会の実施、知財に関するセミナー等を通して、当事者や活動を支える支援者との関係を着実に構築してきた。

芸文祭の諸事業を通じて、団体間・支援者間のネットワークがさらに広がっている。



### 活動を支援する人材を育成

障がい福祉サービス事業所にアーティストを派遣して、ワークショップを実施し、それぞれの事業所にいる当事者や支援員にあった活動方法を提案するなど、今後の継続的な活動につなげた。

芸文祭では、地域のコミュニティセンターや絵画教室へ参加を呼びかけ、普段関わることがない県民にも魅力を伝える、知るきっかけとなった。



### 発表の機会を創出

コロナ禍で予定していた事業が延期や中止になることもあったが、できるところを模索しながら関係者と話し合い、巡回作品展やウーバーアーツ計画を実施し、作者の自信や活動意欲向上につながった。さらに、他の事業所の活動や作品等を見て、今後の活動につながる機会となった。

芸文祭の美術館での作品展は、県内の障がい者の活動の大きな目標となっており、活動意欲の向上につながる機会となった。

## 課題

### 認知度の向上

県内全域でまだまだ支援センターの存在や活動が知られていない

### 情報発信の強化

障がいのある人・ない人に情報が十分に行き届いていない

### 裾野の拡大

障がい者芸術文化活動が一部の個人や団体に限られたものになっている

## 展望

さらに支援センターの存在・活動を県内全域で知ってもらい、活動の裾野を広げる。

教育機関・障がい福祉サービス事業所・医療機関・市町村・文化施設などへパンフレットを配置したり、アウトリーチでネットワークを拡大する。



令和4年2月に実施した、芸術文化活動に関するアンケートをもとに、これまで関係を持てなかった事業所を訪問し、課題を把握したうえでつながっていく。センターが存在することにより、誰もが障がい者芸術文化活動について相談できる場所がある⇒障がいのある人が周りの人や社会とつながる機会が増える⇒障がいのある人が意欲的になる⇒県内の様々な地域で障がい者芸術文化活動が展開していくなどの期待がある。

### SNSやメディアを活用した情報発信



SNSや県政番組、新聞やテレビなどで、定期的に県内外のイベントやアーティスト情報、また支援センターの活動を発信し、障がいのあるなしに関わらず多くの県民に活動を知ってもらい、障がい者芸術文化活動にふれるきっかけをつくる。

### ネットワーク構築（まちなかアート化、作品展、視覚障がいと鑑賞）

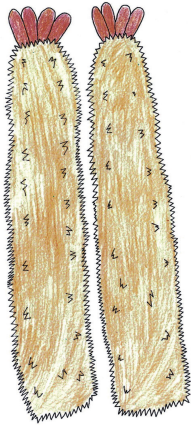


引き続き連携してきた関係機関や活動を大切に、県立美術館での作品展、視覚障がいのある人への鑑賞できる環境づくり、障がいのある人ない人が共に触れあう場でのイベント等を行うことで、障がいのある人や支援者の発表の機会や外出の喜びをつくる。

今年度も、はじめて出会った人たちや団体、またこれまでつながった人たちと関わり、私たちも一喜一憂しながら事業を行ってきました。1つ1つの事業を一緒につくったことで、様々な発見や新たな気づきがあり、また次への課題が見えてきました。来年度も仲間を増やしながら活動を行っていきたいと思います。

これからも、いっしょによりしくお願いします！

超特大エビフライ



ごちそうさまでした!

令和3年度 宮崎県障がい者芸術文化活動普及支援事業 報告書

いただきます、

**宮崎県障がい者芸術文化支援センターです。**

---

発行日 2022年3月31日

企画・制作・発行 宮崎県障がい者芸術文化支援センター  
(社会福祉法人ゆくり アートステーションどんこや)

〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4丁目23-1

TEL: 0985-27-2823 FAX: 0985-89-6000

E-mail: donkoya@jl.moo.jp

URL: <http://donkoya.moo.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/Miyazaki.art.supportcenter>

執筆・写真・編集 愛甲 貴大 岩切 明日香

助成 令和3年度 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業  
(令和3年度 宮崎県障がい者芸術文化活動普及支援事業)

表紙画・本文挿入画 Oさん(アートステーションどんこや)